

やさしいお菓子は コップからあふれ出た幸せ

心の豊かさを見つけるきっかけを与える
オーガニックパティシエ

押川 海香 さん(三郷)

昨年「ユタカナル」の敷地内にオープンしたオーガニック菓子喫茶「かまどのかみさま」。お菓子をを通して幸せのおすそ分けをしている押川海香さんに話を聞きました。

やさしさのバトンをつなぐ場所

何不自由なく幸せな暮らしをしていながらも、何か足りない。満たされたい。そんな都会での生活をリフレッシュするため出掛けた安曇野旅行。時折、頬をなでる心地よい風と清らかな水や土に心を奪われました。偶然にも、その時宿泊した施設の隣の畑付き住宅が売りに出されるとい話を耳にし移住を決意。2022年10月に引っ越し、翌年自宅を改修してオーガニック菓子喫茶「かまどのかみさま」をオープンしました。



移住前、育児に追われ心身ともに憔悴しきっていた時、作り手の真心がこもった食事やお菓子に救われたことがありました。その時、心が豊かな人が作るものには、心を満たすエネルギーが宿っている。そして、人を笑顔にするには自分が心から幸せであることの大切さに気がきました。

安曇野の人々の優し

さや風土に触れ、空っぽだった自身の心のコップから豊かさがあふれだすまでに至った今、クラウドファンディングで開店資金を支援してくれた多くの皆さんや、今まで受けた数えきれない恩を「返す」のみならず次の人へ「送り」たい。ユタカナルは「恩送り」というやさしさのバトンをつないでいきたいという願いを込め、さまざま体験やかまどのかみさまのお菓子で「豊かさとは」を体現できる場所です。

土と水を守りたい

子どもが生まれる前からオーガニック食材を中心としたお菓子を作ってマルシェやオンラインで販売しています。体は食べたものや吸った空気で作られているし、人の約60%は水分。もし選べるならば、食べ物も空気も水も、どれもきれいな方がいいと思っています。特に水は使った流れたら終わりではありません。蒸発して雲になり、そして雨となつて戻ってきます。だからこそ、栽培方法にこだわっている地元農家さんを応援したくて、減農薬リンゴや自家製無農薬スペルト小麦を使ったお菓子作りをしています。こうしたお菓子を通して、安曇野の土や水、そして地球や人々を守る循環の歯車の一つになれたらうれしいです。

心の余裕を持った時に初めて地球という大きなものへ関心が持てるようにな



高知県出身。2022年に夫、2人の子ともと埼玉県川口市から移住。短大の製菓学科を卒業後パティシエに。「かまどのかみさま」のコンセプトは「世界でただ一人大切なあなたに贈る お菓子」。イベント企画やキッチン教室も主催している。

Instagram
ユタカナル(左)
かまどのかみさま(右)



MEMO
○ユタカナル
農業体験や木工クラフト、ナチュラルボデイよもぎ蒸しなどさまざま体験ができる(左記より要予約)
○かまどのかみさま
営業日・木・金・土曜日
午前10時～午後4時(臨時休業あり)
場所・三郷小倉4027

りますが、過去の自分がそうであったように、日々の生活に追われているとそんな余裕はありません。忙しいという字は「心を亡くす」と書きます。そうなったときはユタカナルに来て、心のこもったお菓子と優しい夫・豊さんを入れるコーヒ―で満たされてほしいと思います。

こだわりぬいた10品 商品化へ

2月19日 安曇野オリジナル商品案採用報告会



市と南安曇農業高校では、市の特産物などを使った安曇野オリジナル商品開発に取り組んでいます。これまでに14案が採用され、4年目となる本年は(株)辰巳、まちの駅安曇野BASE、旬の味ほりがね物産センターで計10案の商品化案が採用されました。

このほど報告会が行われ、商品を考案した9人の高校生が参加し、試行錯誤を繰り返したメニューをお披露目しました。有明カボチャを余すことなく使った牛乳寒天を考案した山口夏歩さん(18)は「食品ロスも考え、捨てられることの多い皮や種も使った栄養満点の牛乳寒天ができた。ターゲットの高齢者には特に食べほしい」と笑顔を見せていました。

手づくりのおいしさに麺くらう

2月17日 手作り麺のラーメンを作ろう!



地域の人を講師に迎え、親子で新しいことに挑戦する親子体験ラボの冬季講座が明科公民館で開かれました。今回は明科公民館の安井館長が講師を務め、麺やスープ、チャーシューなどの具材の手作りに挑戦。参加した親子3組が水加減を調整しながら生地を打ち、手作りのタレや油で味を調整したしょうゆラーメンを味わいました。なかには、もう一度生麺を切って替え玉をする参加者もいるなど、オリジナルの味と麺作りを楽しんでいました。

田坂瑞樹さんと参加した陽登さん(8)は「生地が硬くて打つのに苦労したけれど、お母さんと協力してうまくできた。今度は家でも作ってみたい」と話してくれました。

小倉をもっと元気に! 素敵なお店が勢ぞろい

2月25日 おぐらわくわくマルシェ



小倉地域に暮らす移住者とファインビュー室山が協力し、同施設ロビーでマルシェが開かれました。出店した8ブースはいずれも小倉地域に移住した皆さん。当日は大雪にもかかわらず、午前11時の開店から会場には大勢の人が訪れ、総菜や焼き菓子などを購入していました。家族でマルシェを楽しんでいた大山生幸さん(三郷明盛)は「この雰囲気と素晴らしい眺めを見ながら飲食できて満足」と笑顔を見せてくれました。

マルシェ発起人の嶋田湧さん(三郷小倉)は「今回の出店者は移住者のほんの一部。これをきっかけにもっと地元の人に知ってもらい、小倉を盛り上げたい。みんなでワクワクしたい」と話してくれました。

